

こども未来ワークショップ参加者の意見

参考資料②

No.	私が思う『こども・若者が幸せな状態(ウェルビーイング)で生活を送ることができる社会を創るための具体的な取り組み』(取り組むべき市(行政)の施策、地域・市民ができる(すべき)こと)	補足説明
1	○こども・若者にボランティアに参加してもらう ○教育・家庭で社会奉仕の意義・必要性を教える	・それらが将来の酒田の人勢育成につながっていくと思う
2	○結婚の支援に取り組む(東京都婚活アプリのような) ○酒田に移住したい人、酒田で結婚したい人の気持ちを後押しする。 ○若い人の結婚・ビジネス・子育てをしたい思いを夢ではなく現実に変えていく。	・相談したときに使える制度ややり方のマニュアル本を見ているのか、何か研修的な学びの場なのか…。 ・酒田の若者の未来のために希望の種をたくさんまこう。キャッチコピーで伝えていくのか…。
3	○こどもの居場所づくり、コミュニティづくりに取り組む ○親御さんたちの自由時間を作る ○酒田の経済を上げる変革 ○酒田のいろんなところに地域食堂を作る	
4	○子育て関連団体が連携する・情報を共有する機会を設ける(受け皿の拡大・規模の充実) ○特に高校生に取り組みがあることを知ってもらう ○人材バンク→地域食堂(ある程度有償にして) ○スポーツ体験の機会	・地域の人、親同士、こどもの関わりができる
5	○お互いに理解し合おうとする風土を育む(時短勤務、こどもの体調不良、不妊治療、こども商店街、子育て支援、酒田市を盛り上げたい)	・共感を示す市役所、応援する企業→酒田市に戻りたい(新しい風になる→子育てサミット、こどもサミットなど定期的な交流会)
6	○子育てに寄り添うこと(大人が病気のとくと一緒に) ○地域の中で色々取り組んでいる人がいることを知る(アンテナを張っておく)	
7	○地域の人、学生がボランティアをするときに行政のサポートを充実(金銭面、場所など) ○こどもが学びたい、やりたいということを専門的な人が支える制度 ○地域の人、親、こどもが互いに良い影響がある居場所(こども食堂、ワークショップ)づくりとその情報発信の工夫	
8	○こども達が主役。発案、企画、実行まで大人の助言(協力)なしで計画を進める事業(大人はサポートに徹する)	
9	○行政(国県等)からお金を引き出す→活動・協力(団体・個人)→市民のウェルビーイングに ○行政の一人ひとりがこどもの未来に対して、サラリーマンとしてでなく覚悟を持ってあたる(何をしたいかでなく、何をしたか) ○小中学校の授業改善。「戦前の教育」から「令和の教育」へ(ICT教育の推進、こどもが主役の授業)	